

おはようございます。

長崎大学人 河野茂です。

本日は、昨日紹介した「Navigators」が、それぞれ具体的にどのように世界とつながっているかを、伊東昌子グローバル連携機構長（学生・国際担当理事）に紹介してもらいます。

-----  
長崎大学を世界に導く「Navigators」

グローバル連携機構長（学生・国際担当理事）／伊東昌子

昨日、世界とのつながりは私たちの意識次第であると、お伝えしました。

しかし、どうやったら世界とつながれるのか？そう感じることができるのか？

その答えはたぶん一つではなく、もしかしたら切り口をちょっと変えるだけで世界とつながることが出来るかもしれません。

例えば工学部の[下川瑞貴](#)さんは、理数科目の楽しさを通じて世界とつながっています。多文化社会学部生の[大西健太郎](#)さんや医学部の[小堀梓紗](#)さんも、「身近から始める地に足の着いた国際化」のロールモデルです。

一方で、「Navigators」の中には国境を越えた活動を実践している学部生も多くいます。

例えば教育学部の[甲斐小雪](#)さん、水産学部の[小林大瞬](#)さん、医学部の[川上日菜子](#)さん、多文化社会学部の[猪原彩美](#)さんは、身近なところから国際的な課題に取り組む活動を率いています。

また、長崎から世界に飛び出し、ウクライナ避難民の学生ボランティアに参加した学生もいます。多文化社会学部の[三田万里子](#)さんや経済学部の[橋本和樹](#)さんは、留学をきっかけに国際問題に関心を持ち始めたそうです。

このように長崎から世界とつながる方法の一つではありません。国境を越えても、結局は自分の身近な人や出来事に向き合う日々は変わりません。日常を大切に過ごすことも世界とつながる第一歩になります。自分に合った方法でちょっと国境を越えてみませんか？

関心を持った方は是非グローバル連携機構のHPを訪れてください。皆さん自身が考えたキャッチコピーと素敵な写真が掲載されています。

日本語サイト

<http://global.nagasaki-u.ac.jp/navigators-presentation/>

英語サイト

<http://global.nagasaki-u.ac.jp/en/navigators-presentation/>

それではまた明日。